

沿岸域における地域資源を活用した魅力的な空間形成に関する取り組み



沿岸海洋・防災研究部 沿岸域システム研究室 室長 上島 顕司

(キーワード) 沿岸域、地域振興、みなとまちづくり

1. 背景

現在の「みなとまちづくり」は、イベント、NPOの活用等ソフト対策がメインであり、港における空間形成に係るまとまった取り組み、研究、議論は暫く行われていない。しかし、昨今では、クルーズ来訪客増大への対応をきっかけとした「みなとまち」の魅力的な空間形成等は重要な課題と考えられており、国土交通省港湾局で策定中の港湾の中長期構想の中でも、クルーズとともに港の空間形成が主要な柱の一つとして取り上げられている。また、近年では、様々な分野において公共空間のオープン化の観点からインフラ施設の有効利活用による賑わいの創出が進められてきている。「みなとまち」においても、有効利活用されていない魅力的な水辺等の地域資源が存在しており、これらを総合的な視点で、有機的に連携させつつ、有効利活用していくことが必要である。このため、当研究室では、沿岸域における地域資源を活用した魅力的な空間形成に関する研究に取り組んでいる。

2. 今年度の取り組み

国内外におけるウォーターフロント開発以降の最近の動向と今後の方向性について分析した。国内における最近の動向としては①公共主導から民間主導、②大規模開発から小規模開発・リニューアル・ソフト的な展開（イベント、NPO等）へという流れがあること、萌芽的な事案としては、③倉庫を活用したリノベーションや老朽化、遊休化した施設の再活用、④船や水面の活用などの事例があることを指摘した。しかし、①まだ、十分に水辺の魅力を有効利活用していない事例が見受けられること、②開発自体が単独であったり孤立したりしており、周辺や港

全体におけるネットワーク・関係性への配慮が不十分であることなどの課題があることが分かった。また、海外（欧米）における最近の動向としては、①多くの事例で水辺特有の資源を享受した賑わい空間が確保されていること、②中心となるエリアでは継続的な整備・改良がみられること、③（日本ではソフト的な対応が主であるが）市街地と港の中心部を連結させるための幹線道路の地下化やLRTの敷設など大規模な開発が行われていること等が分かった。

3. 研究会の立ち上げ

検討を進めるため、有識者を集め、研究会を設置した。今後、本研究会において、

- ・人口減少社会における「みなとまち」の新しい空間形成のあり方、コンセプトの提示
- ・「みなとまち」の空間形成にあたっての留意点、空間形成手法、地域資源の活用手法等の整理
- ・必要な制度・仕組み等に係る提言を行うこととしている。



写真 市街地と臨海部を分断していた幹線道路を地下化した例（バルセロナ港）

【参考】

1) 上島顕司：我が国の臨海部におけるウォーターフロント開発後の動向と今後の方向性，第55回土木計画学研究発表会，2017.6